

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム千代原口 1F		
所在地	京都市西京区御陵谷町29-2		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、地域の夏祭り、運動会、地藏盆等に参加している。また、近くの老人福祉センターへ陶芸教室に通う等しており地域とのかかわり大切にしている。10月末には中学校生の職場実習の受け入れも予定しており、その際、認知症サポーター講座を行い、今後も定期的に関わりを持ち認知症についての知識を広めていこうと考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000316-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは独自の理念を基に目標を作り、3ヶ月毎に評価を行い振り返りながら日々理念にそったケアを実践しています。本人や家族、職員は笑顔で利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、一人ひとりがその人らしく過ごせる為にどのように支援するかを、アセスメントシートから導き出し支援に繋がっています。地域と馴染みの関係を築く為に地域の他の事業所や地域包括支援センター等の横のつながりを大切にし、意見交換を行う中で情報をもらい、地域の方々と関わりを持つきっかけを得ています。敬老会では家族、地域のボランティア、かかりつけ医の参加を得たり、地域の中学生の職業体験を受け入れ認知症サポーター講座を行う事で認知症の方への理解に繋がっています。また「地域安心救急ステーション」としての役割を果たすためにAED操作救急処置の受講も行っていきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲示し、各職員出勤時に唱和し日頃から意識するようにしている。	法人の理念を基に事業所独自の理念を作り上げています。日々のケアを通してユニット毎に理念を実践する為の目標を掲げ、3ヶ月に1度評価を行い目標達成後は新たな目標を掲げ、利用者主体の活動を心がけ振り返る機会を設け、職員の意思統一を行い実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会、夏祭り、地藏盆等に参加し、地域とのつながりを大事にしている。	自治会に入会し、町内の運動会、夏祭り等に参加しています。又、回覧板を利用して事業所の情報を発信しています。近所の方に定期的にホームでお茶会を開催してもらっています。散歩時には近所の方から声をかけてもらえる等、顔馴染みの方が増え日常的な交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、認知症サポーター講座を地域の方、対象の行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、自治会長様、地域包括支援センター、利用者様の家族様、等が参加していただき、報告、意見の交換を行なっている。	会議には町内会役員や民生委員、地域包括支援センター職員の参加があり、2ヶ月に1度開催しています。ホームからは利用者の現状や行事、事故や苦情も全て報告しています。参加者からは地域の情報や問題に対するアドバイスももらっています。他の家族にも参加を呼び掛け、議事録は家族に送付し内容を知ってもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回、地域運営推進会議を開き、その際、意見の交換、報告等を行なっている。	行政からは研修の案内をもらったり、ホームでわからないことがあれば相談したりしています。運営推進会議の議事録を管理者が直接持参しています。西京区会議では他の事業所との関わりもあり、情報の交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なく、利用者様がいつでも自由に安全に出入りできるよう夜間以外は玄関は開錠している。	身体拘束に関する研修の中で拘束について学び、日々のケアの中で何が拘束になるのかを考えながら行動しています。定期的なカンファレンスでは、禁止の対象となる行為や本来あるべき姿を話し合い理解を深め、利用者が自由に生活出来るように取り組んでいます。ホームの玄関は夜間のみ施錠し、利用者の行動を止めることなく見守るよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部や外部の研修等に参加し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部や外部の研修等に参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	なるべく実際にお会いし、書類と照らし合わせてできるだけ分かりやすく説明できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見交換、家族様へのアンケートを定期的に行なっている。また、玄関先に意見箱を設置し、いつでも意見を表せる機会を設けている。	年に1回の満足度アンケート調査を行い、その中で出来る事は速やかに対応しています。又、意見箱を設置しています。家族の面会等で直接職員が聞いた外出や清掃についての意見を踏まえサービスに活かすと共に改善に取り組み、会議の議事録は家族に送付し内容を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対するアンケート、面談等を定期的に行なっている。	毎月フロア会議を行い、議題によっては全体会議を開くこともあります。会議では活発な意見や質問があり、検討しサービスに活かしています。管理者による個人面談を年に2回行い環境面等の改善を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課、面談等を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部や外部の研修等に参加し学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへ研修、見学等の機会があり、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人様に聞き取りを行い、入所後も本人様のご要望、思いに寄り添えるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も同じく入所前に聞き取りを行い、入所後もご要望、思いに寄り添えるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、色々な選択肢を提供、説明等を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者様を敬う気持ちを忘れず、言葉遣い、態度には気をつける。また、共に生活させていただく中で利用者様が困った部分をサポートさせていただくという気持ちをもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には必要時、協力を仰ぎ利用者様と共に支えていく関係を築くよう努めて行く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みである人達への手紙のやりとりをされたり、馴染みの場所へ定期的に行く機会を設けたりしている。	今までの馴染みの方との電話の取り次ぎや手紙のやり取りの支援を行っています。教子や幼なじみ、近所の方等の来訪時にはリビングや居室で寛いでもらっています。家族の協力を得て外泊や墓参りなども行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、利用者様同士で家事のお手伝いを分担したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談等があった際は、分かる範囲で相談を受けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者様や家族様から情報収集し、ニーズを把握しアセスメント行なっている。	利用者や家族の思いを入居時の面談で聞き取り、出来る事や出来ない事、意向等は日々のケアを通して心情を汲み取り、センター方式の様式を利用しスタッフ全員で記入しアセスメントを行っています。その際には本人、家族の希望を専用の用紙に記載してもらっています。医師、看護師の意見も記載しまとめ、利用者本位に思いを検討し職員間で共通認識を持てるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に集めた情報を元に今までの生活を尊重しながら、職員間で定期的にカンファレンスを行い、利用者様の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で定期的にカンファレンスを行い、その都度状態の変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で定期的にカンファレンスを行い、利用者様の状態について話し合っている。家族様には必ずご意見、ご要望をお聞きしている。	センター方式を利用しアセスメントを行い、本人・家族の思いを基にカンファレンスを開き介護計画を作成しています。定期的にモニタリング、カンファレンスを実施し、評価を行い介護計画を見直しています。主治医や訪問看護師より意見、指導をもらい介護計画に反映させ、状況の変化にも随時計画の変更が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を主に記録し何か特変あれば、申し送りノートや口頭で伝達していくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院を母体とし、訪問看護、居宅介護支援事業所等と連携し、事業所の多機能を活かした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方をホームへお呼びし、お茶会をしていただいたり、月2回老人福祉センターへ陶芸教室に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様のご希望に沿った医療を受けられるよう支援している。	入居時に提携医について説明し、かかりつけ医を選択してもらっています。提携医の往診は月に2回あり、歯科の往診はもあり希望者が口腔ケアや治療を受けてます。他の医療機関へは家族の協力を得て受診し、その際には情報提供を行っています。夜間、緊急時には提携医との相談連携が出来る体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に何か特変があれば、すぐに訪問看護師、往診医の方に連絡、相談をし指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、Ns、Drと密に連絡をとり合い、現在の状態や今後についてを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Ns、Drと連絡をとり合い、家族様には十分説明をする。	入居時には、終末期に向けた看取りの指針についての説明を行い、同意を得ています。状況の変化によってホームでできる事、出来ない事を理解してもらっています。重度になった場合には、主治医より家族に病状説明があり、本人にとって最も良い方法を考え話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、定期的に救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6ヶ月に1回消防隊員ご指導の下、2ヶ月に1回は自主的に消防訓練を行なっている。	年2回消防署の指導の下、主に夜間を想定し通報や避難誘導の訓練を行っています。又、事業所内では自主防災管理体制が充実し、町会に情報の提供を行っています。AEDやスプリンクラーを設置し、2～3日間の備蓄の準備もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への敬う気持ちを常にもち、日頃の言葉かけや対応に気をつけている。	接遇研修は年1回行い、利用者一人ひとりに尊敬の気持ちを持って職員は対応しています。日々の対応では特に言葉遣いや声掛けについて注意をはらい、丁寧な関わりを心がけています。不適切な対応については個別に指導を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ入浴、食事の選択をしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員中心でものを考えず、あくまでも利用者様主体で生活をしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ髪型、衣服の選択等をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒にメニューを考えながら、分担して食事作りをしている。	食材は業者より届き、献立は利用者と相談しながら、一汁三菜を基本に冷蔵庫の中にあるものを使い、足りない食材は職員と共に買い物に行っています。利用者は下ごしらえや味付け、後片付け等出来る事を一緒に行っています。希望を聞き個別に外食に出かけることもあります。食事の際には心地よい音楽をかけ食事に集中できる環境にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が少なかった場合は、プリンやゼリー等で補い、水分量が少ない方は、水分摂取チェック表を活用し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には定期的に訪問歯科にて治療を受けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行なっている。	利用者一人ひとりの排泄の記録よりパターンを把握したり、個々に合わせて排泄の支援方法を見直すことで布の下着に変更になり皮膚の状態も良くなってきた方もいます。又、食事の形態を変えることで排便の状況が改善されスムーズな排泄が出来るようになり、元気を取り戻すなど、排泄の自立に向け支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品や便通のよいものを提供している。また散歩や、体操等の運動で便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望に沿ったタイミング、日にちで入浴していただきたい。	入浴は週に2回午後からを基本とし、利用者の希望に合わせて入浴が出来るように支援しています。好みの入浴剤を入れたり、本人専用のシャンプー、石鹸を使い入浴を楽しんでもらっています。ゆず湯、菖蒲湯等も行い季節感を味わえる環境も整えています。入浴拒否があれば時間をおいて声掛けを行い、無理なく入ってもらえるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ今まで通りの生活習慣で休息していただき、就寝中も気持ちよく安眠できるような居室環境、温度設定等行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が「お薬リスト」「内服薬一覧表」にて副作用や用法等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理しない程度に、お手伝いをさせていただき、趣味、習い事等好きな事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候やタイミングに合わせて、少しの距離、時間でも外に出るようにしている。散歩が難しい場合は、日光浴等も行なっている。	天気と体調の良い時は毎日でも散歩やなじみの場所に出かける支援を行ったり、駐車場や玄関先で外気浴を行っています。桂川方面の桜の花見や松尾大社へ紅葉の他、初詣やドライブなど外出しています。家族の協力の下、思い出の場所への外出も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は小銭程度所持しておられ、買物に行かれた際は、ご自身で金銭管理をされている。それ以外の利用者様は、希望があれば、いつでも購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、お電話やお手紙をしていたらいい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ今までの生活習慣に変わらない居室環境を整えるよう心がけている。	共有空間は家庭的な食器棚や食卓、ソファなどの家具が置かれ落ち着いた雰囲気があり、利用者の状況に合わせてリビングの机の位置を変えたり環境を整えています。廊下にはベンチが設置され、自由に一人で寛いだり休憩の場所として利用されています。玄関には陶芸やちぎり絵などの利用者で作った作品が飾られ季節感が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かな場所がお好きな利用者様や、独りになられるのがお好きな利用者様、談笑されるのがお好きな利用者様もおられる為、その場の雰囲気等をみながら心地よく過ごしていただけるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人様、ご家族様に聞き取りをし、できるだけ馴染みのもの使っていただけるように働きかけている。	居室は明るい畳敷きの和室となっており、ベットや使い慣れた家具、カーテンを設置し、を置いて過ごしやすく工夫しています。家族の写真や花を飾り、一人ひとりにあった居心地の良い空間作りに配慮しています。又、手作りの表札は個々に合わせて装飾しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ができる事を職員がやってしまうず、自立支援の視点で援助していく。		